

経営比較分析表（令和3年度決算）

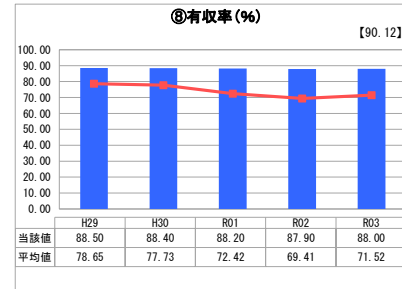
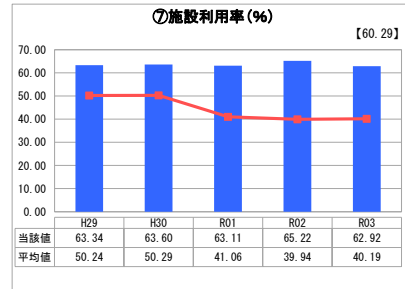
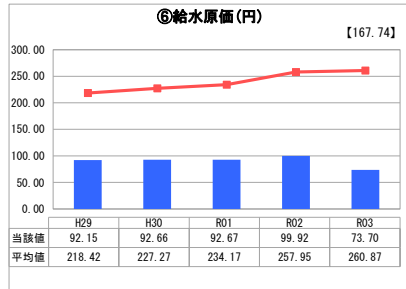
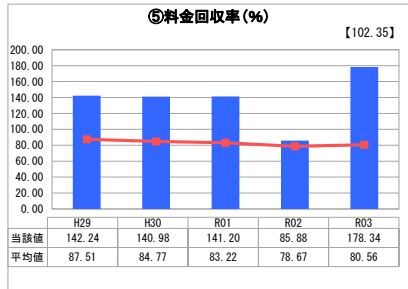
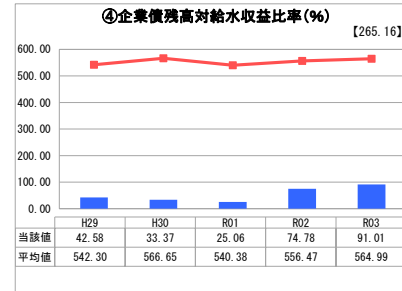
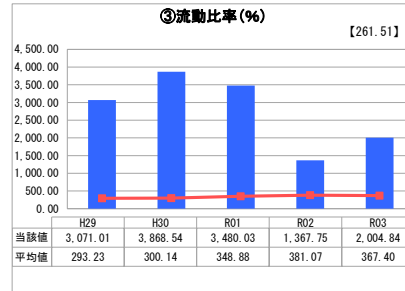
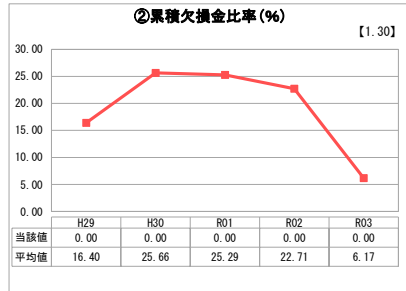
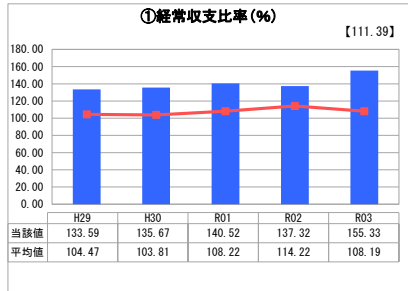
岡山県 和気町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A9	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	90.04	34.94	2,612	

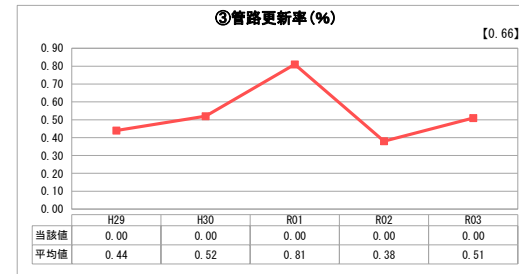
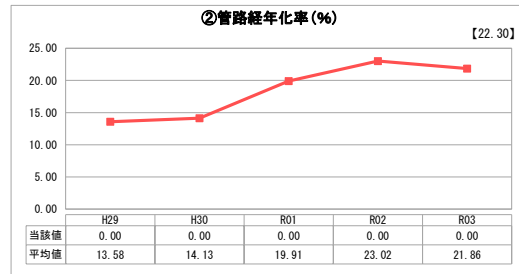
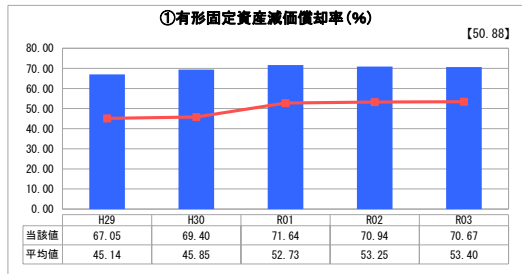
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
13,689	144.21	94.92
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
4,740	4.02	1,179.10

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率については、人口減少等により給水収益は減少しているが、委託料が減少したことで、前年度から増加する要因となった。
 流動比率については、令和3年度で現金の増加により、前年度から上昇し、比率も100%を上回っているため健全性が保たれている。
 企業債残高対給水収益比率については、近年、企業債残高が減少傾向にあったが、令和2年度から企業債事業が増加したことが、上昇する要因となった。類似団体より低い理由として、投資規模が適正であることがあげられる。
 料金回収率は、前年度で水道料金の減免をしたことで減少したが、今年度は、委託料が減少したことで、給水原価が減少し、上昇要因となった。類似団体と比べて、高い水準となっているが、今後も適正な維持管理に努めていく。
 施設利用率については、横ばいで推移しているが、将来の人口減少等を踏まえ、施設の統廃合等の検討を実施していく。
 有収率については、近年、ほぼ横ばいで推移しており、今後も適正な管理に努めたい。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率については、近年、横ばいで推移しており、類似団体に比べて、高い数値となっている。施設の法定耐用年数が、近づいている施設もあるので、今後は、計画的な施設更新を考えていく。
 管路経年劣化及び管路更新率については、低い水準になっているが、保有資産の計画的な更新を進めていく必要がある。

全体総括

経営の健全化に向けて、更なる維持管理の効率化で経費削減に努め、適正な料金改定を進める必要がある。また、施設の老朽化に備え、浄水・配水施設や管路等の計画的な更新を進め、健全な事業運営に努める。

経営比較分析表（令和3年度決算）

岡山県 和気町

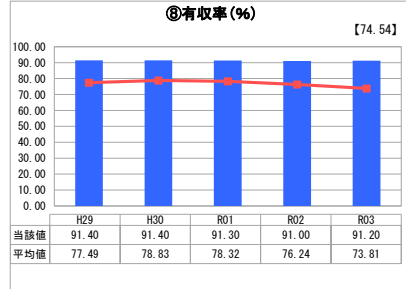
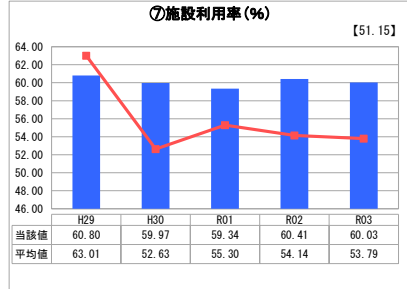
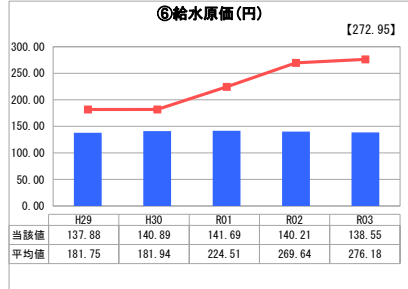
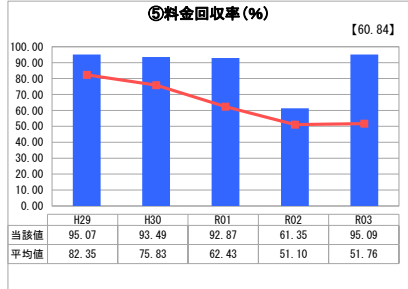
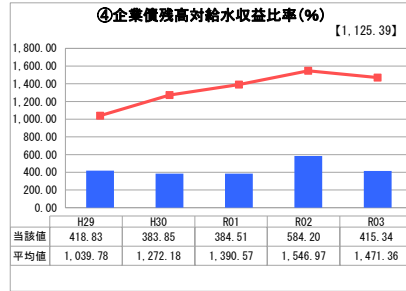
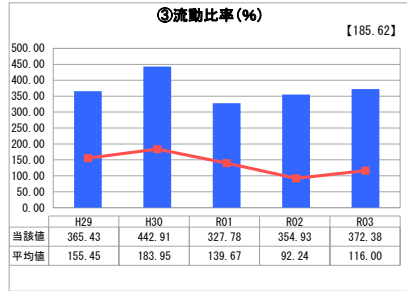
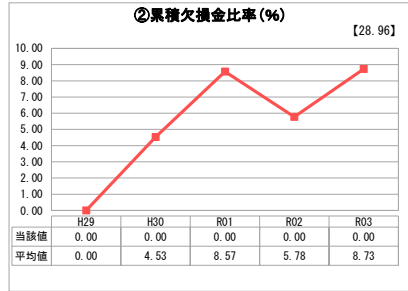
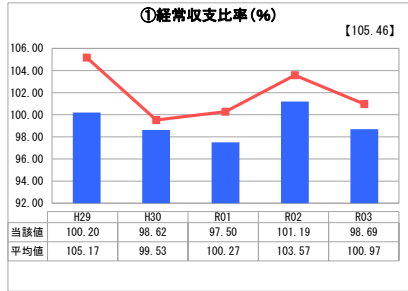
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	66.06	61.16	2,612	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
13,689	144.21	94.92
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
8,298	27.11	306.09

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率については、営業費用の増加により減少している。近年、突発的な修繕が増加しているため、計画的な施設更新を実施し、経営改善を目指す。

流動比率については、前年度から未払金の減少により増加することになった。現状では、類似団体に比べ高い数値で推移している。

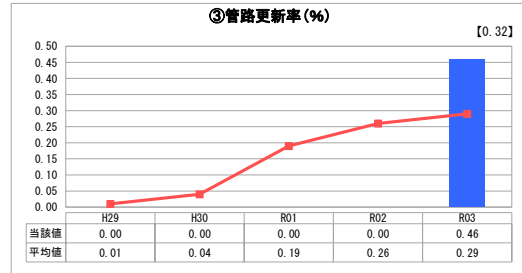
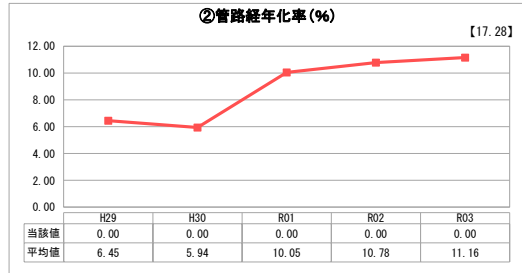
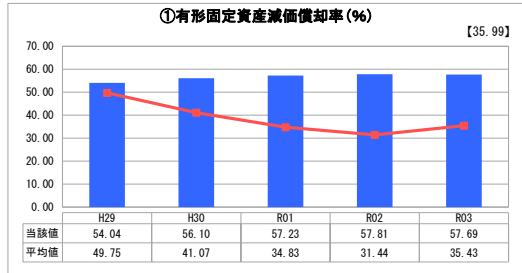
企業債務高対給水収益比率については、前年度から減少している。類似団体に比べ低い傾向にあり、適正な施設更新を実施する。

料金回収率は、前年度で水道料金の減免をしたことで減少したが、今年度は、委託料が減少したことで、給水原価が減少し、上昇要因となった。類似団体と比べて、高い水準となっているが、今後も適正な維持管理に努めていく。

施設利用率については、横ばいで推移しているが、将来の人口減少等に踏まえ、施設の統廃合等の検討を実施していく。

有収率については、近年、ほぼ横ばいで推移しており、今後も適正な管理に努めたい。

2. 老朽化の状況



2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率については、近年、横ばいで推移しており、類似団体に比べて、高い数値となっている。施設の法定耐用年数が、近づいている施設もあるので、今後は、計画的な施設更新を考えていく。

管路経年劣化及び管路更新率については、過去数年間平均してみると低水準で推移しているが、保有資産の計画的な更新を進めていく必要がある。

全体総括

経営の健全化に向けて、更なる維持管理の効率化で経費削減に努め、適正な料金改定を進める必要がある。また、施設の老朽化に備え、浄水・配水施設や管渠等の計画的な更新を進め、健全な事業運営に努める。